

校長がお答えします！ 新学習指導要領を踏まえた 来年度からの町田第五小学校の教育課程について【Q & A】

先月の学校だよりで来年度の「まちごの教育」の準備をしていることをお伝えしました。ここでは多く寄せられたご質問を中心に、新学習指導要領で示されたポイントと、次年度の本校の方針を、校長から説明させていただきます。

教育改革

～受け身の勉強から自ら学ぶ挑戦へ～

今回の学習指導要領の改訂はこれまでの改訂とは異なります。幕末から明治への激動期と同様に、非常に重要な転換期となる教育改革です。このことを私自身が痛感したのは、改訂にかかわる国の二つの会議の委員として、様々な分野の専門家の方々と対話させていただいた経験からです。一つは中央教育審議会、もう一つは大学入試改革で注目された高大接続システム改革会議です。両方の座長でいらした安西祐一郎先生（日本学術振興会理事長）の言葉は、今の自分の教育理念となっています。

「自分で考え、自分で行動を起こし、多様な価値観や背景を認め合って周囲を巻き込んでいく力が大切なのです。たとえば地域で問題があるとき、必要なことの本質を探り出す会話力（対話力）もそうです。その地域内だけでなく、外の力を借りて解決するときの説得力も同じです。自ら課題を発見して解決策を見出していく思考力や判断力、主体性をもって多様な人たちと協働していく表現力や広い視野を育む教育によって、様々な場面でワクワクする仕事を自ら生み出していける社会が実現するはずです。」

学習指導要領改訂のポイントは、「受け身の勉強から、自ら学ぶ挑戦へ」だと思います。グローバル化が進み、AIが進化した時代に生きる子供たちが、どこでどんな人が相手でも、夢を抱いて自分らしく生きていける力を付けてあげたいと切に願っています。この想いをもって、玉川学園地域のよさを生かした町五小の教育課程を創っています。

Q: 来年度から教育が変わることについて、町田第五小学校だけが独自に行うのですか。他の町田市の学校や、他の都道府県の学校はどうなのですか？

A: 学習指導要領は、全国どの地域でも一定の水準の教育が受けられるように「教育課程の基準」となるものです。これまで10年に一度、それぞれの時代の社会のニーズに応じて改訂が行われてきました。今回の改訂については、2017年3月に告示され、来年度から2年間の移行期間を経て2020年度から完全実施することになります。

今回の改訂では、「教育内容」と「時間数」に加えて、「どのように学ぶか」という学び方についても触れられているのが特色です。また各学校では、全ての教職員の学校経営への参画を通して「カリキュラム・マネジメント」を図り、「社会に開かれた教育課程」を目指すことが求められています。これは、社会や世界の状況を幅広く視野に入れて柔軟に受け止め、教科横断的な視点から教育活動を計画し、地域の人的・物的資源を活用して、目指す理念を地域社会と共有・連携しながら実現していくことです。

町田市の各学校は、今年度中に新学習指導要領の趣旨、町田市教育プラン等に基づいて、特色を生かした教育課程を編成し、教育委員会に届け出ます。本校では、4月から新学習指導要領の勉強会を行っており、校内研究で、今回のキーワードである「どのように学ぶか」についても研究中です。現在、全教員で、地域のよさを生かした来年度の教育課程の準備を進めているところです。



新しく始まる外国語科、外国語活動については、地域在住で、英語教育の第一人者、松香洋子先生にご指導をいただきながら、カリキュラムを作成中です。



玉川学園地域の教育力の素晴らしさを表す「ふれあいサタデー」。今年度は28講座が開かれました。地域を歩いたり、地域の施設を訪問する講座もありました。PTAのみなさんのコーディネートのもと、200人近くの方のサポートをいただきました。（写真は「未来のまちづくり」講座）今後も、社会に開かれた教育課程を目指しますので、子供たちの探究活動にお力をいただきたいと思います。

Q: 子供たちも楽しみにしていた行事の「学芸会」をなぜなくすのですか？それに代わる行事はあるのですか？

A: 過去に、多くの学校が「学芸会」から「学習発表会」に変更した時期が2回ありました。1998年の改訂で総合的な学習の時間が新設された時と、前回の2008年の改訂で学芸的行事という名称が改められ、文化的行事という名称に変更された時です。学芸会はこの文化的行事にあたり、町五小では名称を変えずに継続して劇を行ってきました。そのため、良き伝統は継続されてきましたが、他校の児童が経験できている新たな学びのチャンスを失ってき続けたともいえるのです。そこに、さらなる新たな学習指導要領の改訂が示されたわけですから、この機会を見逃すわけにはいけないと話し合いました。

学芸会を通して育つ力には、登場人物への理解力と場と身体と言語による表現力、皆で一体となって創り上げていくことの大切さの実感、さらには、達成感などと言われています。一方、多くの時間を割くことができれば、次に挙げるような学芸会の課題は解決できますが、現状では困難です。それらの課題とは、台本を児童が主体的に自ら創ること、問題に気づいて協働して解決していくこと、教科で学習してきたことを総動員することなどです。つまり、これからの時代を幸せに生き抜いていけるよう、育てておきたい新たな力がたくさんあるなかで、それらを育てるためには、どうしてもより適した学習活動を工夫しなければなりません。

その検討の結果が、学芸会を発展的に解消し、これからの時代を生きるための力の育成の成果を、総合的に発表する学習発表会に進化・深化させるということです。児童はこの学習発表会に向けて、より一層の努力をしてくれるでしょう。

プレゼンテーション、ポスターセッション、お店屋さん方式の発表、劇による発表等々、今までの「ふれあいこどもまつり」でお店を企画・運営してきた経験や、学芸会で劇を演じたときの表現方法も生かしていきます。児童が取り組む課題は、国際理解、環境、福祉、健康、防災、人権といった現代的な諸課題などを予定しています。みなさまのお力添えで、新たな挑戦に努力していきたいと思っております。

Q: 学校行事の精選は理解できますが、保護者としての楽しみが減ってしまうのは寂しく思います。どうしても避けられないのでしょうか。

A: 今まで行われてきた学校行事に全く無駄なものなどありません。それぞれに意味があるからこそ行われてきました。しかし、総時数は変わらないのに雪だるま式にやるべきことが増えています。新規の取組を開始する場合は、既存の取組を減らすという発想（スクラップ・アンド・ビルド）も必要だと考えました。

今回、新学習指導要領の趣旨を実現するにあたり、町五小で長年継続して実施してきた学校行事を、今一度見直しを行う必要がありました。それぞれの行事の意義を再確認した上で、子供たちに「主体的な学び」を育てる学びの場となる取組を優先的に考えました。今まで通り行事を行うことは物理的に困難ですので、あくまでも子供の学びを第一に考え、地域との連携についても考慮しながら、内容を重点化したり、総合的な学習の時間と関連付けや統合を図ったり、準備や練習時間を短縮したりして、行事を精選していくことにしました。また、今回の改訂で、自然災害等から身を守り、安全に行動するという安全教育の必要性も明記されていますので、命を守ることを第一に考え、避難所体験等新たな取組も考案中です。

* 行事を減らして落ち着いた学校生活を重視してほしい、日常の学校生活や学習を充実させてほしい、行事では出来ばえよりも学習過程を重視してほしい等のご意見も多数いただきました。